

加美町

四日市場甚句





よっかいちばじんく  
四日市場甚句は、加美町四日市場宿地区で歌われてきました。「甚句」とは日本の民謡の形式のひとつで、基本の歌詞が7・7・7・5調のものをいいます。

よっかいちばしゅく  
四日市場宿地区は、加美町を流れる鳴瀬川の左岸に位置しています。この場所はかつて、船着き場として大きく栄えていました。四日市場という地名は、月に3回、4の付く日に定期市が開かれたことに因みます。

甚句の歌詞には、かつての四日市場の様子が歌われています。例えば、「四日市場から積み出す俵 竹に雀の年貢米」という歌詞は、仙台藩の時代に四日市場の本石蔵ほんこくくらに加美郡の年貢米が納められていたことに由来しています。

四日市場甚句はいつときは途絶えましたが、保存会初代会長が採譜し46の甚句にまとめて以降、今日でも歌われるようになりました。現在は地区の住民全員が保存会の会員となって、保存と普及に努めています。

昭和53年3月31日に町指定無形民俗文化財に指定されました。